

『NHK 連続テレビ小説』の視聴者レビューに対するテキスト分析

若松 七海

NHK 連続テレビ小説（以下、朝ドラ）は 1961（昭和 36）年から 60 年余りにわたって、日本放送協会により制作されてきたテレビドラマシリーズである。朝ドラは当初、一年間を通して朝 8 時 40 分から 20 分間放送される形式が取られていたが、その後幾度となく変更され、現在では生活者の行動時間を考慮し、半年間を通しての朝 8 時から 15 分間の放送形式が確立した。こうした視聴者に合わせた改編の末、毎年、日本のテレビドラマ視聴率ランキングで上位を占めるようになり、「国民的ドラマ」と称されるようにまでなった。各作品の物語の内容や題材が多岐に渡るにも関わらず、どのようにして朝ドラシリーズが国内で定着してきたのかという問いに迫るべく、本研究では朝ドラに焦点を当てた。

これまでの朝ドラを対象とした研究は、コンテンツ・ツーリズムやジェンダー論、民俗学的側面からの研究など、国内外で多様な分野から行われてきた。また、近年の朝ドラ研究は視聴者の反応に焦点を移しつつあるが、これらの研究の多くは、インタビューや質問紙など限定的な調査に留まっている。本研究では不特定多数の意見を実証的に分析できるテキストマイニングを用いて、視聴者の感想や意見が自由に投稿されるレビューを分析し、一般視聴者が朝ドラ作品においてどの要素に注目しているのか、また、その注目要素と評価の関係性の 2 点について明らかにすることを試みた。

対象とした作品は、従来の研究で調査対象とされていない 2019 年から 2022 年に地上波で全話放送を終えた計 8 作品とした。これらの作品のレビュー文に対して形態素解析を実施し、名詞を対象とした階層的クラスタ分析による頻出語の分類、抽出されたクラスタを基にクロス集計を行い、各クラスタと評価値の関係性を分析した。

階層的クラスタ分析の結果、「登場人物」「仕事」「制作・技術」「場面・エピソード」「全体的な言及」の 5 つに分類できた。複数作品に共通した特徴として、登場人物要素の中でヒロイン夫妻・ヒロインの順に高い注目を集めていること、ヒロイン（夫妻）の仕事内容が全作品で多く言及されていること、制作・技術要素の中で主演に最も注目が寄せられていること、場面・エピソード要素の内、シーンに対して最も意識が向けられていること、全体的な言及の中で作品全体が最も注目度が高いことが明らかとなった。バブルプロットの結果から、視聴者に高く評価された要素は多岐に渡り、共通性が見られなかった一方、「ヒロイン」「脚本・演出」「作品全体」の 3 つの要素が低く評価されていたことが示された。

総じて、視聴者は物語の中心に描かれる要素や主演などの主要要素、作品全体に注目する傾向があり、内容や題材が異なる作品であっても、ヒロインや脚本・演出、作品全体に関しては不満を感じやすい傾向にあると推察した。また、「ストーリー展開」は東京制作と大阪制作の評価が対照的であり、各放送局によって楽しむ視点に差異があることも確認された。

（指導教員 松林麻実子）